



編集発行/日本大道芸・大道芸の会 光田 憲雄

(daidogeikib.biglobe.ne.jp) http:// daidougei.seesaa.net

江戸の物売りと大道芸

日時：三月二日(日)開演

十一時〇〇分～十一時三十分

十二時三〇分～十三時〇〇分

場所：深川江戸資料館 火の見櫓下

地下鉄清澄白河下車 徒歩三分

料金：大人四百円 小中高等五十円

ご見学にはチケットをお求めください

演目

春の物売り

季節の物売り

◎日常にきた物売り

アサリ売り

魚売り

かりんと売り

唐辛子売り

野菜売りなど

◎大道芸

女霊媒師

神霊術

玉すだれ

小鯖鮓売り

(「狂歌四季人物」)



特定の氏神様へ行く人以外いました。
は寝正月が普通でした。
です。から渡り鳥が未だ来
たからです。大人にとっ

その代わり二日は、早朝
ないうちに、来ても対抗出
ても普段は締め切っている大
から全てのものが動き始め
来るように、滋養豊富な七
名屋敷の門扉が一斉に開け
ました。二日の朝を告げる
草を食べておこうとしまし
た。邸内見物が出来ました。
ものと云えば、「小鯖の鮓売
た。最後の「とことんこ
初午当日になると、早朝か
り」です。にぎり寿司が流
とん」は、組の上で七草を
ら油揚げ売りがきました。
行るようになってから、上
刻む包丁の音です。

方由來の押し寿司が姿を消
当時は現在のような初詣
しましたが、小鯖の鮓だけ
の習慣はなく、自分の生ま
鳴き声コンを掛けた売り声
は、江戸の正月を告げる縁
れ年に拘わる寺社へのお参
イ午アの日イ あぶらげ(油
起物として欠かせないもの
で、初詣でした。例えば、
した。未だ明けやらぬ二日
「初子」大黒天」「初天神
狐の好物とされる油揚げを
の早朝から江戸の町々を流
(丑)」「初寅」毘沙門天」
な お供え用に、後でお下がり
し歩いていました。しかも
どです。「初卯」は商売繁
を頂くために稲荷鮓(三角
形
「坊主だまして還俗させて
盛や開運出世などを願ひ、
京都の石清水八幡宮、賀茂
で備えるために買い求めま
S
といわれたほど、しみじ
神社、大坂住吉明神(大社)
いた。

小鯖の鮓でも売らせたい」
京都の石清水八幡宮、賀茂
で備えるために買い求めま
S
といわれたほど、しみじ
神社、大坂住吉明神(大社)
いた。

み響き渡る売り声を江戸の
等へ参詣。江戸東京では、
今年の大河ドラマ「べら
う」萬重榮華乃夢嘶」は
吉原が舞台なので「吉原細
見
「すしやアコハダのヲすし
ていました。江戸の初卯詣
売り」は欠かせません。
のの帰りに、すぐ近くに
「新吉原 仲之町 京町 江
と、

年が明けて七日目は人日
あつた「臥龍梅」を見に寄
戸町 角町 大見世小見世
の
七草粥の日です。七草売り
つていました(明治四十三年
何でもわかるよ 細見」
が、呪文のように唱えなが
・一九一〇害に遭い枯死」
手拭いを吉原かぶりにした
が、初卯の頃には未だつば
売人が、美声を上げていま
し
「七草なずな 唐土の鳥が
み。今では「俳風柳多留」
た。そのほか日常生活に必要
な臥龍梅」の川柳を残すの
沢山いました。いくつを紹
介
みです。

「唐土の鳥」は、寒い時期
小正月も終わり、お正月
アサリ売り、魚売り、かり
んに流行る病 インフルエン
ザ気分がすつかり抜けた一
月と売り、唐辛子売り、煮
豆
等の病は大陸から飛んでく
中旬以降になると、江戸の
売り、物産館売り等です。
る渡り鳥のことです。イン
人達が、待ちに待った「初
フルエンザに限らず流行病
午」(今年は二月六日)用の
ました。次頁でご紹介します
は、全て大陸からの渡り鳥
「太鼓売り」が顕れました。
最後に玉すだれをご紹介します。

が運んでくると信じられて
子供達が 太鼓を叩きなが
たいと思います。